

これからの医療情報向け
クラウドシステムへのアプローチについて

デュアルカナム株式会社
大松 重尚

【はじめに】

本プログラムでは、国内外でのクラウドの展開状況、当方でのクラウド技術の進化、並びに新たに構想している技術概念とそれに関係して研究中の通信技術に関する説明と、デモを実施して話題を提供するものである。

【クラウド技術への考察】

国内及び米国系のパブリッククラウド、プライベートクラウドに関して(資料1~2)

資料1

●3 クラウドシステムへの流れについての考察

- ◆ハードがなくなる→コストが下がるのではという期待
- ◆ベンダーロック(納品業者固定化)からの脱却
- ◆入替時もクラウドへの転換の方が早いという話題がある
- ◆多くのハードウェア資源が使えるので高速処理が期待できる
- ◆障害発生時に集中的に対処してくれる

□高速通信とクラウド側でのハードウェア調達に対して「インプット」がもたらす結果

□ユーザー側での「アウトプット」としてクラウド技術での利益モデル創出はこれから

資料2

●4 クラウドにおける現在の課題

- ◆パブリッククラウドでは、各社間で利益を度外視しても、シェアを確保しなければならないという競争と、プライベートを標榜する企業との戦いの中にある
パブリッククラウドで一番の課題は個々のユーザー要求での細かな設定や調整が単独では困難
- ◆プライベートクラウドでは、ビジネス要件の洗い出し(コストダウンと高速化のみなど)や、全体のシステムとデータ戦略とのマッチング、過剰な要求を処理しようとする部分での課題がある
パブリッククラウドが特定の目的に合致しているとプライベートクラウドではその部分で対応が困難になる
- ◆プライベートクラウドとパブリッククラウドを複雑に結ぶファブリック技術(ハイブリッドクラウド)は、そもそもの目的が何かわからなくなる。

?そもそもこれら是对立する構造なのか?

【クラウドへの取り組みについて】

Googleの創業者の最初のハードウェア構成を見て、開発、実装を進めてきた。(資料3)

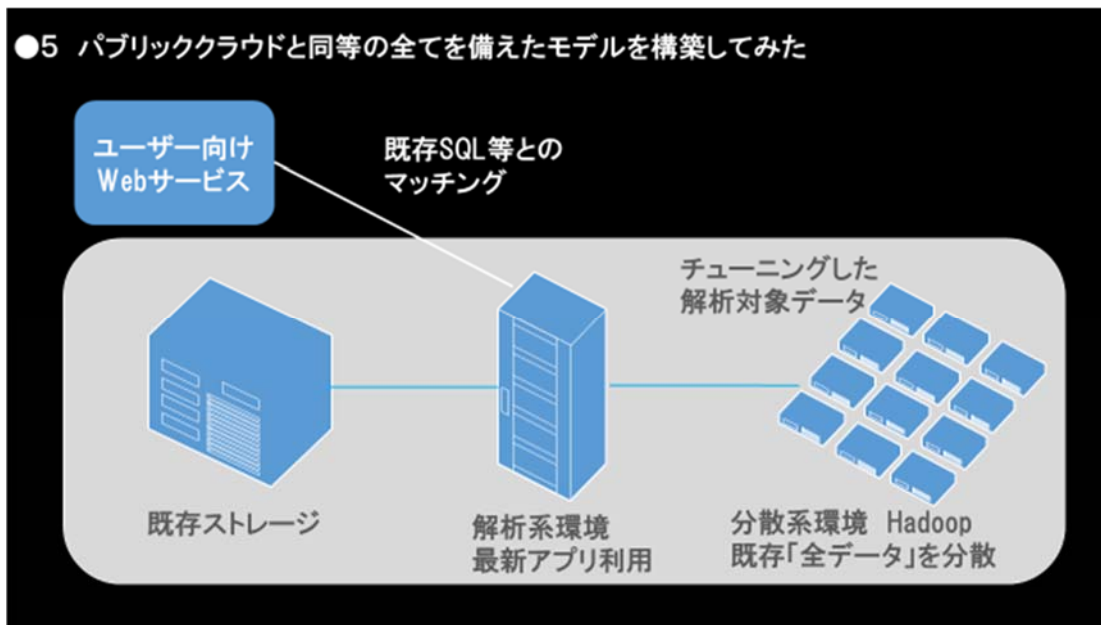
資料3

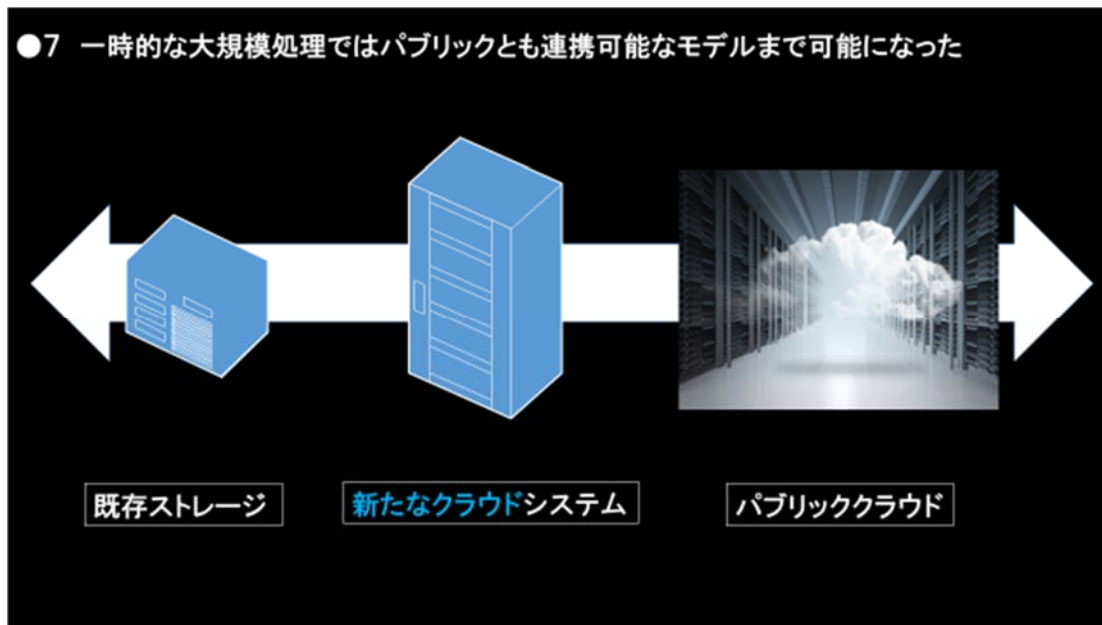


【こちらからのクラウドシステムの概念について】

下記にてモデルを説明(資料4~5)・

資料4





【研究中の通信システムデモについて】

研究中の通信システムのデモとして、プレゼン内での説明に留める。

- ① HBaseに格納するためのデータ転送方法を3通りの方法を説明
- ② HBase格納のためのデータ転送デモを行う

【デモ環境について】

当社使用のデータセンター内に仮設置したPC4台分でのハードウェアに設定した。

以上。